



みんながうれしいが一番

朝晩の冷え込みが厳しい季節になりました。周りに目をやれば、空は澄んだきれいな青色、木々は美しく色づいて、秋の深まりを感じます。日中との寒暖差が大きいほど、葉の色は鮮やかになると言われています。紅葉には大切な気温差ですが、体調を崩しやすいので、脱ぎ着のできる服装をするなどして健康に留意していただきたいと思います。

新型コロナウイルスの感染者が減少し、学校では感染対策を継続しつつ、様々な活動を行っています。音楽室からは子ども達の歌声やリコーダーの音色が聞こえてきます。各教室ではグループ活動や班での話し合いなどが行われています。消防署の方による出前授業（3年）や税務署の方による租税教室（6年）、福祉実践教室（5年）、助産師さんによる命の授業（4年）など、外部の方にお越しいただいて体験学習をすることができました。また、読書週間中はPTAボランティアさんによる読み聞かせも久々に行っていただきました。運動会、修学旅行、林間学校、社会見学といった学校行事も日にちを変えたり形を変えたりしたものもありましたが、すべて実施することができました。コロナ前は当たり前に行っていたことですが、1つの行事が終わるたびに「やれてよかった」と強く感じました。運動会の選手宣誓で、「運動会が行えることをうれしく思います」という言葉がありました。子どもたちも行事や活動に「みんなで一緒にやれる楽しさや喜び」を味わっているようです。

さて、今年のNHKの大河ドラマ「青天を衝け」は、資本主義の父といわれる渋沢栄一の生涯を描いています。ドラマの中で、栄一の母が幼少期の栄一に向かって、「自分がうれしいだけでなく、みんながうれしいが一番なんだ」と言う場面がありました。栄一は、日本初の銀行を創業したことで有名ですが、他にもガス会社や保険業、福祉、医療、教育、国際交流と幅広い分野で活躍しました。その根底には、「個人の利益より、より良い社会の実現のため」という考えがあったと言われています。母の教えである「みんながうれしいが一番」という言葉が栄一に大きな影響を与えたことは間違いありません。

自分がうれしかったり楽しかったりするときに、つい周りが見えなくなってしまうことがあります。特に子どもは、「自分が楽しいから、きっと他の人も楽しいだろう」と思ってしまいがちです。でも、「みんながうれしいが一番」「みんなで楽しむ方がいい」という思いを常にもって、どうしたらみんなが楽しく過ごせるかを考えて行動できる子になってほしいと思います。運動会や社会見学、修学旅行等で見せた子どもたちの顔には、一人では得られない満足感や達成感が表れていました。保護者の皆様には、様々な活動に対し、ご理解とご協力をいただき、ありがとうございました。

校長 速水一美

12月4日は「世界人権デー」です。日本では、毎年12月4日から12月10日までを「人権週間」と定めています。尾張旭市では、今年の11月24日から12月23日までを「人権月間」としています。旭丘小では、11月24日に「人権集会」を行いました。また、この期間に各クラスで道徳や学活の時間に「人権」についての学習をします。これをきっかけに、今まで以上に、自分のことも周りの人たちのことも大事にしてほしいと思います。そして、一人一人の人権がしっかり守られて、みんなが笑顔で過ごせるようにしていきたいと思います。ぜひ、ご家庭でも、「人権を守ること」について話し合ってみてください。

なお、11月29日・30日に思いやり委員会が「赤い羽根運動」を行います。趣旨に賛同していただける方は募金へのご協力をお願いします。詳しくは、後日お知らせいたします。

<学校行事>

●6年 修学旅行10月19日(火)20日(水) 京都・奈良



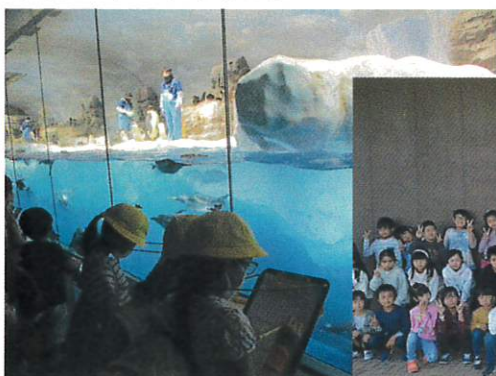
●運動会10月29日(金) 午前日程



●5年林間学校11月10日(水) デイキャンプ 郡上八幡自然園



●各学年 社会見学



個人懇談会 11月16日～19日

短い時間でしたが、顔を合わせてお話ができ、有意義な会となりました。伺った内容を今後の指導・支援に生かしていきます。お忙しい中、ありがとうございました。